



ユネスコスクール便り

№82

令和元年12月9日
大牟田市I社Jスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

広がるESDの輪 ～SDGs達成のために～



平成24年に「ユネスコスクール便り」初号が発行されて7年、これまで小・中・特別支援学校の実践事例を紹介してきましたが、今回初めて高等学校の実践事例を掲載します。三池工業高等学校の「『炭鉱(やま)の祭典支援・ジャーボー支援』で地域と繋がる」という特色ある取組の事例です。

ユネスコスクール・ESD全国実践交流会で、「17 パートナースHIPで目標を達成しよう」はSDGs達成を支える根幹であるというお話があったように、校種や立場は違っても、それぞれが当事者意識をもち、一人ひとりができることから取り組んでいくことが大切です。持続可能な社会をつくるために、これからも協働し、ホールシティで取り組んでいきましょう。

「炭鉱(やま)の祭典支援・ジャーボー支援」で 地域と繋がる 三池工業高校



三池工業高校では、土木科の生徒たちが開発・制作したモルタル製のペーパーウェイトを使った「ジャー坊(ゆるキャラ)応援モザイクアート」を製作体験できるブースを、宮原抗で行われる「炭鉱(やま)の祭典」にて出展し、日頃の学習を地域に還元できるよう考えました。

その中で、皆さんから前回のゆるキャラグランプリで激戦を繰り広げていたジャー坊への応援メッセージを頂きました。

また、宮原抗における憩いの場を創ることを考え、来訪者に使用してもらうための手作りのベンチやテーブルを設置しました。



炭鉱の祭典にてアート制作指導を行う生徒

特色ある実践事例の紹介

「銀水花いっぱい絆プロジェクト」を通して

銀水小学校



本校の4年生は、学校生活と地域とのつながりや校区の宝を調べる活動を通して、郷土愛と感謝を表現する方法を考え実践する学習を行っています。

今回は5年生から引き継いだノースポールの種を取り、お世話になっている地域の方や保護者に花を育ててプレゼントする計画を立てました。地域の方々の協力を得て、たくさんの種が取れました。子どもたちは活動を通して地域との絆を強めているようです。住み続けられるまちづくりを目指し、今後も学校教育活動と地域づくりのさらなる連携を深めていきます。



協力して取れた花の種

地域のことを考えて 中友小学校

～「子ども民生委員活動」と「大牟田川調査隊」～



中友小学校では、ESDの一環として福祉教育や環境教育に重点を置いた学習を進めています。5年生においては、地域の一員としてみんなが安心して暮らせるつながりのあるまちを目指し、「子ども民生委員」として、認知症学習、ネットワーク模擬訓練、街頭募金活動などに取り組んでいます。

4年生では、市内の5つの小学校と連携した『川プロジェクト』の取り組みとして「大牟田川調査隊」の活動を行っています。大牟田川の観察や水質検査等を行い、川の環境について考え、私たちにできることを考え、取り組んできました。

「人がつながる」「環境に優しい」中友のまちを目指して取り組んでいきます。



川の生き物について教わる子どもたち